
第2の世界～The Second World～

水無月 鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第2の世界〜The Second World〜

【Nコード】

N6294W

【作者名】

水無月 鷹

【あらすじ】

急成長した企業とその『商品』があった。

名称はそのまま

(株)バーチャルリアリティ『第2の世界〜The Second World〜』

もともと対人対モンスター混合VRMMORPGのゲームプログラムだったものだが、何時の間にか本当に第2の世界になりつつあるといわけである

それが本当に第2になる少し前の本当にVRMMORPGだった頃

くなった後のお話

VRMMORPGだから運営のせいにしてなんでもありwなんていう展開になると思われなくても無い。

(処女作&勢いで書いたものですのでgdgdになる可能性が高いので注意して下さい

主人公がセコイ+チートかもしれない

誤字脱字の指摘があればバシバシ直しますので、躊躇せず指摘して下さい)

※これはものすごくよく似た地球じゃないところ又はパラレルワールドです。

あくまでもフィクションです

#1 始まりの始まり（前書き）

な書き忘れましたが2011年ごろの話です

#1 始まりの始まり

俺、秋葉月^{あきはつき} 慶^{けい}一人称はもちろん「俺」だ。

プロフィールは

年齢…28

身長…168

体重…60

顔立ち…所謂純日本人かつ顔の良さ（イケメンさ）は自他ともに認める中の中

職業…魔法剣士

こんな感じ

職業について多大なるツツコミが予想されるので弁明すると、

俺は（株）バーチャルリアリティ『第2の世界』管理部 部長職

である。具体的に言う『第2の世界』で一番偉い人。偉いよ？俺。なんせ地球の全人口のおよそ1／3はやっている（と言われている）のだからね

今や63億人ぐらい入るからね

なんでこうなったかって？

それは6年前に遡ることになる

2005年秋～秋葉月22歳大学4年～

卒業論文をとっと終わらせた俺。

偉い！頑張ったって。

これで近日公開VRMMORPG『Second World』第2の世界』に間に合う～

いやあ、フルフェイスヘルメット型特殊VR装置「VRExper

ience」通称VRXを開発しVRシステムを大きく向上させた開発元（株）バーチャルリアリティから出るVRMMORPGだっているんだからネットゲーマーはもちろんのこと世界中から注目されているのは当たり前だよな？

※「VR Experience」通称VRXとは今まで視覚、聴覚だけだったゴーグル型より少し大きいフルフェイスヘルメット型であたかもそこにいる様な感覚になる。どちらかと言うとシミュレーションドリァリティの考え方に近いものである。これは従来の目に見せるのでは無く脳神経に外部から微弱電力で作用させているらしい（人体には無害なのが実証済み）

尚セットで「Reality Recognition Camera」というカメラが捉えた画像をゲームのAvatarパラメーター（容姿）にしてくれる（かなり正確）もの。現代のカメラのついている顔認識技術の発展系。背景なんかも大体できる。

最新パッチで筋肉の盛り具合なんかもVRXとセットで認識できる。

（開発部より）Avatarはこれでキャラを作る

説明長え

それはともかく
閑話休題

んでもって秋の終わり11月ごろだったかな？βテスト版参加者募集に応募して見事βテスト版プレイ開始！
それが物語の始まりであった

#1 始まりの始まり（後書き）

だから勢いと（r yで始めたってば
勢いと（r yだから適当なところで力尽きたw
次回はこの先βテスト版プレイからですう
真面目にやりますよ次回は

#2 β テスト〜神shingetu降臨まで（前書き）

昨日のと一つにまとめようと思ってはいたんですが何となく2つに分けました

#2 βテスト〜神shingetu降臨まで

2005年11月初め〜秋葉月22歳〜
ようやく始まったβテスト。

あくまでもテストなのでLvは25Lvまで（製品は100Lvまで）

2ヶ月の期間限定だから大晦日ごろにはβテスト終了。

βテストのキャラは通貨と装備品・アイテムの一部が引き継げることになっている。

その代わりテストでは強力なものが出ないので苦勞するけど。。。それまでに25Lvまであげてアイテムを大量に確保しなくては！

2005年12月28日〜秋葉月22歳〜

告知通りβテスト終了

こっそり引き継げないLvやLvの高いアイテムを自分のパソコンの中にデータとしてかくしておいたぜw

2006年3月初め〜秋葉月22歳〜

『第2の世界』一般公開開始

ここでβテストで使っていたIDとパスワードでログイン

おおお！きれいさっぱり高Lv装備・アイテムが消えている！

このキャラクターにパソコンの中に入れておいたβテストの最終セーブデータを上書き

このゲームかなりセキュリティが厳しくて上書きするのに苦勞したよ
そしてみんなLv1の中1人だけLv25からのスタートを切った
このままだと運営にばれると思って変わり身にキャラを1体作ると
いうところまで気が回っている俺

とりあえずクランやサークルグループなどには属さず一人で体モン
スターで狩り開始

職業は＃1で書いたように魔法剣士

さて『第2の世界』本編を楽しむとするか

※余談ではあるがこの『Second World』第2の世界』
ずいぶんと最初から拡張性が高い

名前負けしてないなと思ってみたりする

まず最初にサーバーがかなりの数用意しておりそのサーバー一つ一
つに国が設けられていてその中に州や県があつて・・・と現実世界
に非常に酷似している。させてある

また職業も最初から商人として遊ぶとか武器屋・防具屋にして遊ぶ
等対人、体モンスターのみのVRMMORGとはちよつと違って
いる。（もちろんダンジョンに赴く剣士など戦闘職業もある）

もちろんNPCの武器屋、防具屋、露店などもある

閑話休題

まずは最初からLv25にしたキャラしんげつshingetu通称「月」
こいつが俺のメインキャラ

で隠れ蓑のakiha通称『秋』Lv1あきは

akihaはもちろん自分の名字から取った

shingetuというのは俺がよく使うIDネーム

このゲームのIDは漢字やひらがな・カタカナ対応（さすが日本企
業）だけどやっぱりshingetuがしっくりくる。うん

あれ？話がそれてるな

というわけでまず月でモンスター狩り。。。

どうせVRXシステムで思うように動かせるんだから初級ダンジ
ョンを飛ばしていきなり中級ダンジョンから

炎系魔法を一発起動できるようにして中級ダンジョン『水晶の洞窟』へ

『水晶の洞窟』というのは名前から想像できるように氷系の洞窟型ダンジョン推奨Lv15以上

地下へ進んで行くとモンスターが強くなるよくある洞窟ダンジョンだ。

中級といっても初級に毛が生えた程度なのでLv25にもなればたいたことは無い。

「さて狩れるだけ狩るか」

オープン初日こんな所にはもちろん人っ子ひとりいない

まずはプレイヤーに最初に配られるIDカードでちゃんとLv25であることを確認する

名前…shingu

Lv…25

HP…75

MP…100

PA…41

PD…36

SA…59

SD…40

経験値…33562455（後33546409でレベルアップ）

状態…健康

職業…魔法剣士+2

武器…クリスタルソード

防具

頭…魔法使いのハット

胴…魔法使いのローブ

腰… //

腕…なし

脚…ブーツ

Pは物理Aが攻撃Dが防御Sが特殊
その組み合わせでおおよそのステータスが決まるHPとMPの説
明はいらないよね？

経験値の計算は前の経験値かける2の仕組み

たとえば3Lvから4Lvに上がるには3の時点で8なのでもう8
つまり合計で16必要になる

それがどんどん増えると25Lvでは最低でも合計3355443

2 必要と馬鹿でかくなってしまう

説明はここまでにしておこう

なぜ武器だけあんなに強そうなのかということにかく殺される前に
殺すスタイルだったから武器にばっか力が入って防具は初期装備と
いうわけ。情けないことに防具まで手が回らなかったのだ

そんなこんなで初洞窟へ

下へ行く階段前で早速モンスターに遭遇。エンカウント

一発起動の炎初級魔法「ファイヤーショット」を3発で焼けてくれた
もちろん素材は剥ぎ取り

あいては雑魚モンスターなので対して上級じゃない素材でしたが…
そんなのを続けた

（秋葉月25歳）

そんなことを3年ほどやっていただろうか

shinningetuは

Lv..100

HP..9999

MP..9999

PA..9999

PD..9999

SA..9999

SD..9999

経験値..126765060022823000000000
00000（後0でレベルアップ）

職業..魔法剣士+10

状態..健康

スキル..????

武器..Darkness Spell Sword+10

防具

頭..闇黒龍のヘッドギア+10

胴..闇黒龍の特殊鎧（胴）+10

腰..闇黒龍の特殊鎧（腰）+10

腕..闇黒龍のグローブ+10

脚..闇黒龍のブーツ+10

ってな感じ

闇黒龍というのはこのゲームのラスボス（アップデートがなければ）

に当たるモンスター

通常ならLv70～80で多人数PT組んでも厳しい（俺以外勝った記録なし）といわれているモンスター。

ほかの人はLv60～70ぐらいで足踏み中

そんな中ひとりLv100になってしまったものだから1人だけ最上級ダンジョンにいる

だれにも見つからないのでPKは仕掛けて繰る輩もないし、
本当にいるの？なんていうチャットまで出てきている。

ちなみに闇黒龍シリーズの防具は防御をカンスト、武器（Darkness Spell Sword）は攻撃をカンストしてくれる武器。ただし100Lv以外装着不可能という致命的な欠点がある。

「もう行き止まり暇になったのでakihadukiの育成するか
」

そんなときに運営から非公式メールが来た
なんだろう？

まさかバレたか？

#2 β テスト(神shingetu降臨まで(後書き))

かなりはしょった希ガス・・・

気のせいです→

この後shingetuのバックアップをもとにakihaduk
iの育成をするかと：

#3 部長誕生（前書き）

やっと回想が終わるかな？

#3 部長誕生

2006年4月15日

「いつもプレイありがとうございます

運営の（株）バーチャルリアリティです

このたびはLv100達成おめでとうございます

つきましては4/20日までに一度（株）バーチャルリアリティ
までお越しく下さい

素敵なプレゼントを差し上げます」

よし行こうか。

バーチャルリアリティも本社をここ『第2の世界』に置いているか
らすぐ行けるだろう

（株）バーチャルリアリティ

「ここかあ何くれるんだろーなー？」

と思って受付に入るとすぐに応接室に通してくれた

3分ほど待つとなんと社長兼研究員の玉本 仮想氏が来てくれた

「このたびはLv100達成おめでとうございます」

素直にお礼を言うべきであろう

「ありがとうございます」

「君へのプレゼントの件なのだがね」

早速来たなワクワク

「是非ともこの『第2の世界』の管理部門の部長になってほしいの
だ」

えっ？

「私がですか？」

「そうだとも」

「だめかね？」

「そんなことはないんですが私でもいいのでしょうか？」

「この世界唯一のLV100様が何を仰るか。もつともこの世界を知っているだろう？」

それはもちろんだ。一番知っている自負もある。

「つまり私がここを管理するのですか？」

「そうとも」

「わかりました。お引き受けいたします」

「ありがとう。それではふみこんだはなしなのだが・・・」

長かったので要約すると給料の話と雇用体系の話と今後の『第2の世界』の話だ

とくに最後が重要で今後「第2の世界」は今後本当に第2の世界として機能させたいということだった

とりあえずサーバーの拡張とゲーム内仮想通貨コイン（表示単位C）を円とトレードできるようにしたりすることを提案してその日は帰^{ログ}アウトしたつた。

今日のことをまとめると俺は（株）バーチャルリアリティ第2の境界管理部門部長（明日から）として正式雇用されることになった。

次の日

朝起きたら早速ログインし、shingetuをみる

役職という欄が追加され、管理部長と書いてある。

おおおおおすげえ早ええええ

さて今日の朝のトピックスは？

ん?

「Cと円の交換が可能に?! Cでリアル世界で買い物ができる?!」
 となっていた

だから社長早ええええええええええええ

提案した内容が簡単に開始されてしまっているー！
やっぱりもうそれなりにでかかったんだなこのゲーム
驚きを隠せなかったが今shingetuで動く気にもならないので
akahadukiでゲームを開始することにした

っとまあこんな感じで今部長になった
そうするとshingetuが動かせないののでってことで1から育てたのがこれ

名前..akahaduki

Lv..45

HP..12378

MP..35489

PA..21765

PD..20965

SA..35647

SD..28975

経験値..35184372088832(後3518437208
8832でレベルアップ)

状態..健康

職業..魔法剣士+4

武器..ハイエンドクリスタルソード

防具

頭..ハイエンドクリスタルヘッド

胴..ハイエンドクリスタルアーマー(胴)

腰..ハイエンドクリスタルアーマー(腰)

腕..ハイエンドクリスタルハンド

脚..ハイエンドクリスタルレッグ

(クリスタルセット)

クリスタルとは魔法を通しやすくロスの少ない魔法と使う者にとつては装備しやすい素材

中級〜上級まで十分に使える

ハイエンドクリスタルとはクリスタル装備の最上級品。錬成のスキル&レベルともに高くないと防具武器屋でも扱えない

防御と攻撃の高さが異常なのは装備のおかげ（shingetuのお下がりだが）というしかない

さてこいつの育成のためまあ集会所でも行くかー

#3 部長誕生（後書き）

次回からようやく a k i h a d u k i で動き出します
秋がここまで成長したのは月のお陰なのはいうまでもあるまいな？

#4 秋の現状（前書き）

克蘭＞サークル＞グループの順で大きい
グループが10人以下サークルが30人以下克蘭はそれ以上
第2位の克蘭が出て来ますよー

#4 秋の現状

いやぁ以外とばれないもんだね

shingetuがLv100になる前からちよこ秋で集会場（酒場）に来ていたけど誰もshingetuとは疑わないみたい
まあshingetuの装備は黒が基調なのに対して秋は白だしネームも全然違うしね

でもやっぱりハイエンドクリスタルセット装備のLv45なんてそうそういないから目立つわぁ

さて今回は経験値稼ぎたいし適当なダンジョンに潜るか、と思っただけけれどただ潜るよりも依頼をこなした方が効率がいいと思うんだ

そんな訳で今俺は公式依頼掲示板に来ている

公式依頼っていうのは運営からのミッション（クエストとも言ふ）や公式な手続きを踏んで出される素材回収依頼が出ている

対義語に非公式依頼があってこれは露店のおっさんから〇〇を〇個売ってくれ（とって来てくれ）なんて言うのがそれに当たる（たまにクランの仲間や親しいプレイヤーからも助けてくれてチャットで言われるのも広義では当てはまる）

公式の方が安全・安心できるし何より数が多い（回収するものの数も）。

とりあえずLv50相当のクエストをと

のぞこうしたら誰かに見つかった

「おーい」

だれ？

「おーいー」

ああ

現在勢力2位のクラン「スターナイトソード」ですねー

あの剣士主体で質・量ともに高いところですねー
ってなんで？

「どうも」

うわっ隊長さん（Lv85）だよ。リーダーだよ！
でもどっかで見たことある・・・

ああこの間PT組んだ強い人かあ
ってええ？！

俺品定めされてたってことかクラン誘われたしなあ

なんでもLv45でありながらハイエンドクリスタルシリーズ揃えてるのが珍しかったらしいよ

ハイエンドクリスタルシリーズⅡ60Lvでやっと揃う>しかし俺はLv45

やっぱり珍しいわ

と言っても裏に月がいるのはバラす気ないしなあ

「先日はどうも」

「今からクエストですか？」

「まあ成長させようかと」

「しかし見ているところが普通と違う・・・」

あっLv40台なのにLv50のとこ見てるの気づいてたのか

「サブですか？」

「ええまあサブっちゃサブだしサブじゃないっちゃサブじゃないんですが」

サブって言えばいいのにこのバカ何ヤツテルンダヨ

「今回も一緒にどうです？Lv60クエストで」

んゝ悪くは無いなかな

「また一緒にいいんですか？じゃあお願いします」

「こちらこそ。クエストは・・・、雷神複数匹の討伐、で今20..
20回った頃ですし20..30広場集合で」

おいこら待てええええええええそれLv60のラスボスじゃねえか
ああああああ

10分で仕度しなっ
てか

#4 秋の現状（後書き）

広場と言うのはダンジョンに行く前に必ず通るところで広場の奥にダンジョンへの転送装置があります

基本的にハチ公前みたいな集合場所です

隊長さん（スラッシュエルさん（♂））は真面目ない人＋トップレベルの剣士でもあります

#5 スターナイトソード（前書き）

まだ出でこないバトルシーンと雷神w

もつと展開を早くできるようにしたいなあ

魔法の属性付加について

魔法には火、風、雷、土、水の基本5系統と光、闇の特殊2系統無系統の8つが有ります

基本5系統は火、風、雷、土、水では左側が右側に対して有利で水は火に有利です

他に有利不利はありません

闇は基本5系統に対して有利ですが光に対して5系統の有利不利よりも不利（ダメージの現象と倍加が大きい）で光は5系統に対して不利ですがダメージの現象と倍加が少ないです

無系統は全ての魔法に対して有利不利は有りません

また治療などの魔法は全系統で行えますが、多少差があるみたいですよ

#5 スターナイトソード

「20・30・05かギリギリ（でアウト）だな」
うわきつびしーたった5秒の遅れで!？」

それ信号待ちしてただけだから信号のつながが悪かったただけだから
!（ないけど）

俺と隊長さんだけかと思っていたらスターナイトソードSNSのみなさん（見たところ
10人ほど）も一緒なんですな

ちらっと見てみるとみなさん60〜70Lvですねー
だから俺45Lvだってば（泣

「うんじゃ全員そろったことだしそろそろ行きますかー」

何の躊躇いもなく転送装置に突っ込んでいく隊長さん

まじでLv45ノオレガライジンタオシニイクンデスカ？

あーあーあー皆いちやったよお

うわーん（転送装置に飛び込み）

一瞬視界が歪んだ後目の前にはおっかない山とそこに続く道が見える
草原に立っているワタクシ

ここに来たのはいつ以来だろうか？

うーん月が60Lvぐらいの時だったなあ？

あの時は誰もいなかったけど今は結構賑わっているみたい。

それにしてもクランが多いような・・・？まさか、ね？

気にしたら負けだと思って目を逸らすことにする俺。

「それじゃあ今回の討伐目的ライジン雷神がいるあの山へ行くとしますか」
何でそんなに呑気なのー！

って考えてみりゃ俺がただ単にLv低いだけか（何回言ってるんだ
ろう）

なんてことを考えている内にズンズンと進んで行く隊長以下12人
（SNSメンバーの参加者総数）と最後尾に続く俺

結構皆さんいい装備っすねえゝ鉱物系も動物系もいいもの持ってるっしやるようでさすがって感じ？

雑魚モンスターの電気系モンスターがいくつか出て来たのをバッサリ斬り捨てる時点で実力も結構ありそう何ですけどー

雑魚と言っても40ゝ50Lvだし

俺とLvは変んねえし・・・

やっぱりなんか怖いわゝLvが

なんてことを考えつつ途中参戦しつつ進んで行ったら気が付くと雷神がいるステージの一つ前にいたりする

あれえ？やっぱりクラン多いなあ？

まさか？！

#5 スターナイトソード（後書き）

武器防具には鉱物系と動物系があります

モンスターから剥ぎ取って作ると動物系

ハイエンドクリスタルとか

鉱物はそのまんま鉱物系です

鉱物系は基礎防御攻撃が高めですが属性付加しずらいです

動物系はこの真逆ですので剣士は鉱物系が多い設定です

また魔法士は動物系が多い傾向にあります

#6 イベントモンスター(前書き)

多少話が進めばいいかと

#6 イベントモンスター

騙されたー！ー！ー！

やっぱりそうだったか！それは10分前に遡る

どうもクランの数だけでなく人も多い

クランだけでも3位の Magic Union（職業…魔法主体SNSと同盟有り）とか4位の time shinobi（職業…忍者主体のクラン）とか。

5位の……あれは……デストロイヤー日本支部？

プレイヤーキル

このクランは理由無きPKが多くて運営でも問題になっているクラン特に職業に拘らず質より量で相手をリンチの様に攻撃するという手法で5位を保っている

「隊長さんまさかとは思いますがど嵌めましたね？」

「ばれちゃったかあ。そうなんだよねー今日此処でイベントあるんだよね」

「退路も塞がれたしヨロシクね☆」

「てめえ☆つけるようなキャラじゃねえだろ隊長！」

「イベントとは週一で何処かのある時間に出る超強力モンスターの討伐のこと此処ではいくらPKしてもお咎めは無い」

他のメンバーも同じように「☆キラッ」とかやりやがって

そうこうしている内に真ん中に閃光が走った次の瞬間神雷神がそこにいた今回のイベントモンスター様だ

そんなにアクティブじゃなかったクランが次々に攻撃を開始する。

「うわお」

真横を弾丸とクナイと手裏剣と基本5系統のショットが飛んで行った

「・・・」

「端っこで観戦してt」

「突っ込めって」

え？ちよっと！危うくさっきと同じようなものに当たるところだった危ない危ない

「ーじゃなくて！押すの止めて！赤信号渡ってる途中にトラックに突っ込まれるより怖い！実際そんなことになったことは無いけど！」
流れ弾だけでもかなり危ない何せ皆60Lvぐらいはあったりするから

「流れ弾回避し辛いから一旦端へ避難してもー」

幸いフィールドは広いので端っこならー

「って角の方（も）地面が火吹いてるよ！じゃなくてそこも危険だって」ー端っこすら危険地帯

仕方ない殺るか

「チッ」舌打ちを一つした後一気に5系統のショット×36計180発分を詠唱する前方180°に対して1°刻みで1発づつ指向性を持たせて一気に魔力をつぎ込む

「フグッ」「どこから!？」

悲鳴をあげる敵プレイヤー180発70人程に全弾命中内30人程の運の悪かったプレイヤーが倒れた

この人数といいLvの多様性といい何かがおかしい

「隊長少し下がらしてください」

返事を聞かずに下がり多機能端末を開く

公式通知用掲示板↓イベント↓今週のイベント

・・・ふむこのイベントで雷神神を倒した時に生き残っていたプレイヤー全員に伝説級の武器がもらえるんだそうなしかも自由な形で（剣とか銃と言う意味で）。

だったら張り切るわな。

それでいつもなら参戦しないような低Lvプレイヤーまで来てるのか。倒れることへの恐怖がないのか？

このゲームHPが0になり倒れると1LVダウンそして下がったLVの最初まで経験値が下がる。更にアイテムの一部と所持金（家や銀行にあるのを除いて）を失う。対人対モンスタードちらも同じだ。まあ対人だと倒した方がアイテムと所持金ランダムで少し貰えるんだけど。

実際一回パーになってみると結構辛いものがある
何せ稼がなきゃいけない経験値が多すぎるからな

さてそろそろ上がって突撃かな？

まず無系統の身体強化（時間制）を掛けるそしたら剣に対して斬れ易くなる風系統魔法（時間制）シャープネスアップを掛ける
どちらも時間制で切れたらヤバイのがネックなのにこれは持久戦になりそうと言う低Lv魔法士泣かせ。魔法剣士だけど。MP Lvに
対して多けど。

後は気合いを入れて

「いづくぜええええええええええええ！！」

#6 イベントモンスター（後書き）

これは3〜4回くらいで収めたい

先は執筆中・・・

Now being written.....

#7 あくまでも戦闘中（前書き）

停滞中

なんかもっさり。。。。

#7 あくまでも戦闘中

「いづくぜえええええええええ！」

と威勢のいい声を張り上げて突っ込む俺。

誰も来ない味方。

急停止する俺。

振り返る俺。

トボトボ味方のところに戻る俺。

此処までにおよそ30秒

「なんで誰も動かないの？」

「今行くと流れ弾に当たるから」

そりやそうだけどさ

「衝撃の事実！SNSって誰も動かないクラんだって——」

スパ
ア
ー
ン

快音が俺の頭から――

「せめて戦略といえ――！」

SNSの元氣そうなツッコミ役女性プレイヤーナツキさん（LV68）だった

「痛つてえ」

「だってクランの評判に関わりそうだったから……」

余る程入会希望来ておいてよく言うわ

「それはともかく今行くのは良く無いですねえ」 つと隊長さん

「あの～身体強化とかかけちゃったんですけど～」

「知らないわよ！勝手にかけたんでしょ！大体まだ時間に余裕があるじゃない！」

確かに勝手に掛けてますしかなり余裕を待たせてますけどね。結構鋭いっすね。

「とりあえず突撃のタイミングは？」

「少し落ち着いてから。今行くと1体2どころか1体3にも4にも
もしかすると更に多くなるかもしれないから」

1人だったら突っ込んでたなんて思っていると例の8点セット（
クナイ、手裏剣、銃弾、基本5系統ショット）が――――

またかよ！好きだな！そのセット！

ヒョイっと躲した地点でまた8点セット――――

危ないって！本当に！

コレも躲すと次は来なかった

出来るだけ攻撃は躲す出来なければ剣で弾く

そうして流れ弾を回避して生き残る作戦で相手らの出方を見ている
と次第に戦火が弱まって来た

そろそろLvが低いのからMP切れや体力（スタミナの方）切れが
出て来たみたい

それでも60lvとか70Lvはまだまだイケイケっぽいけど。。。

・・・

「なんか・・・すげー膠着状態じゃね？」

かれこれ10分程ほとんど飛び道具も飛んで無いし接近戦も無い。

神雷神なんて放置されている（神雷神は暴れているけど）

「・・・チャンス？」

「かもね？」

返しまで疑問系。

「だったら――――」

風系統遅延発動魔法を剣に掛けて近めの集団に向って横回転を掛け
て地面を這うように投げる

びっくりする集団。

真ん中で起きる竜巻。

「「「ふわああああああああ!!」「」」」

軽い悲鳴をあげている集団に向って一気に走る

スライディングして真ん中まで一気に入り剣を取り手近なヤツから斬って行く

「うぐっ!」「なんだこいつ!?」「いつから此処に!?!」

最初のが斬られた手近なヤツその後が(多分)仲間の悲鳴

慈悲深い(?)俺は仲間も一緒に動揺している隙に斬る。そのまま対応出来ずに一個中隊程の集団が全滅。
やっぱり8点セットが来たので離脱。

「お前は何をした?」と隊長

「えっと、まず剣に時限信管代わりに風系統の「トルネード竜巻強化版」を遅延発動で掛けて投げる。それが発動したのを見届けた後スライディングで剣をとって動揺している間に切刻みしました」

「「「・・・」」!?(・|・;?」

「なんであの人数を1人で殺れるんだ?」

ああそれは月で鍛えた――――

つとコレはトップシークレット

「いや剣士職なら振れるか「うちのクランに来ないか?副リーダーの席を用意しよう」今は決められないっす。それと話に入って来ないよーに」

戦場でヘッドハンティングされた・・・

まあ秋ならいいかもしれないけど

「それは生きて帰ってからで――――」

さっきので目をつけられたらしい

銃弾が真横を通り抜け目の前で爆発が起きる。

一斉に回避行動に移るSNS

普通に早い

集団戦法でデストロイヤーが攻めてくる!

どうやら職業…兵士が多いようだ。

兵士の基本武器は銃器。

素早く大量に直線的な攻撃ができる。つまり射線に入らなければ安心。入ったら蜂の巣と言う単純な職業&武器。

しかしデストロイヤーは集団戦法を得意とする。それは横一直線に射線があることを意味する。

つまり逃げ場なんてありがたい物は無い。

知覚・身体強化がある俺はまだいいが純粋な剣士である隊長さん等などは剣で弾くのも結構辛い

そうになると必然的に射線を潰すしかない

此処からSNSの反撃が始まる

#7 あくまでも戦闘中（後書き）

後1話でこれ終わらまつせ

#8 決戦？（前書き）

随分あっさりもっさりしています

#8 決戦？

「「「いっくぜえええええええ！！」」「」」

前話と違いこちらはSNSの掛け声。

こうじゃなくっちゃね！

それぞれ最前線にいるデストロイヤー兵士を斬って行く

「うぐっ！」

「うげっ！」

「——！」

やっぱり40Lv程度だとそんなに強くは無いが、

ダダダダ——

すぐ後ろに機銃部隊の機銃掃射がある事で難易度が60Lv相手よりも難しくなっている

「——っ！」

隊長さんの左腕に被弾したらしいが見てるとこっちまでやられそうなので今は無視。その程度（深めのかすり傷）なら死にはしないだろう。

そんなことを考えつつ目の前の敵兵を斬って行く。

まず胴体に一太刀。動きが鈍くなったところで首を斬る。

そしたらすぐに回避行動を取る

何しろ鉄の嵐ってのを体験してる真っ最中だからねとっとと離脱し無いとこっちの首が飛ぶってーの

————ズパァン

「?!」

近くの地面から土煙が上がっている

狙撃手もいたのか！

「居るのならば叩くまでの事！」

知覚強化で見直して……見つけた。

そこから半径100mを範囲指定し雷系統魔法「落雷」ライトニングドロップを発動させる
これは指定範囲内に大量の落雷を隙間なく落として相手を攻撃する
魔法。動いている対象や大体の位置しか分かっていない対象には絶
大な効果があるのだが魔力消費が多いのが難点。
ただ半径100mなら俺にとって対した量にはならないだろう。

ライトニングドロップ
落雷が当たっていたところは見事に全て（狙撃手含み）真っ黒に焦
げていた

・・・やり過ぎたかな？

一応痛みとか疲労のフィードバック（実際には影響無し）があるか
らな・・・

でも仕掛けたのはあっち。そしてお咎めなし。気にしな～い

「怨むなら運営をー！（って俺運営に名を連ねてるのか）」

未だに続く機銃掃射。

それを必死によけて相手に近づく

右左右右上しゃがみ上左右左上右左右上右右弾弾右上左斬

何しろ近づくのが大前提の剣士職。

近づかなければ話ならん

魔法でもいけなくは無いがこの弾幕に撃ち落とされるだろう。

それを力づくで押し切れるとは思えない。

デストロイヤー
敵本陣中心で暴れる12+1名

傍観中（対新雷神）の Magic Union と time shi
nobi。

神雷神はまだまだ元気であるがデストロイヤーの前線にいた40l
v50Lvがほぼ全て制圧されつつある

そうすると指令の役割をしていた60Lvぐらいにヤツが数人（1

0人に満たない）出てくる。やはり職業…兵士ばかりと言うかだけ
しかもそこにいるデストロイヤーの敵は傷を負っているも弾幕の中
を生き延びそして制圧したSNS（+1）。

そして兵士＜剣士の接近戦。10人以下＜12+1。デストロイヤ
ーの平均Lv＜SNSの平均Lv。勝てる要素のないデストロイヤ
ー。そして勝利か勝利か死以外離脱不可のフィールド。

音もなく対デストロイヤーが終わった瞬間だった。

忘れかけてた神雷神は残りHP1／10程。ありがとうtime
shinobi達。

何時の間にかtime shinobiとMagic Union
は不可侵条約を結んでおりそこで争いは起きていない。

そのため元々同盟のSNSが集まると残りHPが1／10程度の神
雷神を倒すのに10分と掛からなかった。

全員が思い思いの伝説級武器を手に入れたところで帰還用転送装置
が現れ無事に帰還し、後で正式にいろいろあるらしく酒場の会場1
つを貸切予約していた。すぐに宴会直行だな……。おれも呼ばれ
てるけど行くべきかなあ？

#8 決戦？（後書き）

友人から頼まれてコメディ―短編を書くかも。
全く本編と関係なかったですね。

#9 宴会場（前書き）

宴会になった模様です

#9 宴会場

無理やり連れて来られる羽目になりました———
やっぱり20分戻ってね

「戦闘終了後帰還直後」

「~~~~・~・~と言うわけでtime shinobiさんと俺らの同盟で打ち上げを集会所併設の酒場の宴会場3予約してあるからお前も来いよな！」

すっげー筋肉タイプのガルドさん(♂)に背中をバンバン叩かれながら言われた。うう・・痛い痛いよ。

「それ、俺はどこにも属してないので辞退させていただこうかと「来るよね？」今行かないって言ったばっかだったからね！？それと割り込みやめてもらえますかね！隊長さん！」

「連れねえじゃねかよ！んなことあ言わずに来いって！」

「あーもー行く気しないですって！大体僕部外者じゃ無いですか。」

「そーゆうことはいいから。何なら今回は奢っちゃうよ？」

「金 銭 的 に は 大 丈 夫 で す ！ 」

「じゃあ奢ってもら「やっぱり厳しいかも」どっちなのよ！」

「ほら時間時間」

上から俺、ガルド、俺、隊長、俺、ナツキ、隊長の順である。

そんなこんなでギャーギャーしてるといつの間のやらわらわらと囲まれて連れて行かれた。

結構策士だなこの野郎共。

それ見事に祭り上げるように宴会場に連れて行かれたわけです。
んで持って防具も外さず宴会場にいる俺。

周りも同じような格好だけど。

やっぱり言われたんだよね

「「うちにはいませんか？」」

MU(Magic Union)にまで言われた。

そりゃそうだ。

何しろ遅延魔法を剣に掛けたりするような奴って見られてると思うからな

あの瞬間(剣に魔法を掛けて投げた)も見ていただろうし、あんな使い方すんのは俺だけだろうって言う自負がある。それ程までに珍しいってこと。

そもそもこのゲーム魔法剣士が少ない。

理由は至って簡単。「中途半端だから」

そう、真っ向勝負をすると魔法では魔法士に負ける、剣技では剣士に負ける。ほら中途半端でしょ？

でも実は遠距離は魔法近距離は剣技の使い分けができるし、今回の様なアイデア次第ではどちらにも勝るようなめんどくさい職業なのだ。

中途半端で面倒臭くて使い辛い。好んで選びはしないだろうが100Lvまで行くと少なくとも剣士・魔法士の100Lvよりは強い。たぶん。

「いやえつとそのなんていますかえつとその……」

言い訳ってこういう時に限って出来ないんだなあ

素直に「アレ(月)がいるから無理とは言えないし。それを隠す為のこいつだし。」

「あゝ今決め切らないので保留にしましてまた後日じゃ駄目ですか？」

「それで構わない。いい返事を期待しているよ☆」
だから隊長あんなに☆は似合わないってば！

それから飲んだ。食った現実世界にかんけーねーとか言って飲んだ。
確かに二日酔いはないし酔った気分にもなれるけどロウアウト忘
てるよ皆…

#9 宴会場（後書き）

この後ようやく月が出てきますよう？

#10 入会

宴会があった次の日

バーチャルリアリティ社社長室にて

「・・・と言うわけなのですが入っておくべきでしょうか？秋の方で」
「確かに理由もなく上位クランからのお誘いを断るのはまずいがなあ。以下にも怪しいし…」

「そうなんですが任務のほうに支障が出てもなどと考えると入るのは厳しいものになるかと思われます」

「だよなあ」

「・・・どうするのこれ？」

「よし君にもう一個プレゼント。取説読んで必ず装備しておくように」

「こんなもの開発してたんですか…」

後日

SNS集合事務所

カランカラン。どっちかっていうと喫茶店か。

「たいちよー」

「おや？ a k i h a d u k i 君か。で返事は？」

「入会することになりました。なので手続きのほうを——」

ガラガラガッシャーン

「何やってんの？」

見事に机ごとひっくり変えて周囲が大惨事になっている。
擬音語にしやすいような音出てるし

「いやあ～てっきり断られるんじゃないかとかもしかしたらMUのほうに流れちゃうんじゃないかとか考えてたからさあ」

まあ結構悩みましたけどね。結局はいるけど

「というわけでこれからよろしく願います」

と言いつつ周りを見渡すと皆60Lvには達している

この場で一番低いのも60Lv^{びったり}。くそっ明らかに一人Lv低い。

「はい、書類に不備なし。書類審査通過。無事入会完了。おめでとー」

ちゃらーん

「クラン専用チャットチャンネルが解放されました」
無事にシステムでも完了したらしい。なので俺は――

「それと今日はこの後用事がありますので僕はこれで。」

カランカラン

に得たかったのもあるが今日は人が少ないところでアレを試さなきゃいけないんでね

沈黙の森1F

さてあまりにもよくわからないダンジョンで有名な沈黙の森にやっ
てまいりましたー。F1と言う簡単な筈の階にも関わらず誰も居ま
せんー。ぱちぱちー

では機能もらったクイックプレイヤーチェンジシステムを使ってみ
たいと思いまーす。

これは登録してあるプレイヤーに一瞬で変われる代物。昨日貰った
アレ

今ログインしているのをロウアウトさせ登録プレイヤーでログイン
っていうの一瞬でやるっていうこと

じゃあ起動させまーす。

カアッ

――――っ！目が痛い！ぐらいの光！

シュウウ

おおー！変ってる！月に変ってるよう！

久々に月でログインしたので町に行って買いだしでもすっか
ってそんな事したら大問題なのでとりあえず月・秋共同宅へ帰還。

そしてもう一度あの装置を使って秋に戻る。

おおー！便利ー！

スバラシー！ニホンノギジュツリョクデスネー。

さて使用チェックも終わったし買い物兼ぶらぶら散歩にでも行きま
すか。

まずは、NPC商店でHP・MP回復用ポーションを大量購入。

次にNPC武器屋でメイン武器の切れ味を上げる。刃こぼれ結構し
てたから意外と高くついた。この後喫茶店でゆっくりする金が一（
泣）

ううう。

しょうがないのでぶらぶらしているとズパアアアアンという綺麗に
響く発射音が郊外から小さく聞こえている。自衛隊のVR訓練日か。
リアルだからできるVR訓練b v自衛隊。

弾薬の消費が現実ではなく安全に訓練できるんでんで自衛隊などの
各国軍隊等治安部隊で訓練に使っているのだ。

それはよいとして
閑話休題

いやー平和だなあー。さてプレイヤー商店街でも通って帰るとしま
すか ログアウト

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6294w/>

第2の世界～The Second World～

2011年10月29日11時05分発行